


分野	21	保健・医療	通番 30
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	健康づくり教育事業		会計	款	項	635,854	健康医療推進室
			一般	4	1		
事業の概要							
「自分の健康は自分で守る」という意識と行動の浸透のため、生活習慣病や要介護状態の予防等の知識の普及を図り、健康意識を高めます。市民全体へのポピュレーションアプローチ及び個々への動機づけとなるよう従来の健康教育に、更に情報発信の方法や内容の工夫を行い、市民の健康増進に努めます。							


令和2年度の実績							
D (取組)	指標	健康づくり啓発事業の参加者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	7,100 (平成26年度)	目標	7,100	7,100	12,000	12,000	12,000
		実績	12,359	14,442	13,792	15,641	13,346
	指標	広報・ホームページ等による健康情報の配信回数				単位	回
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
22(平成26年度)	目標	23	24	25	26	27	
	実績	25	28	27	32	28	
<ul style="list-style-type: none"> 無料歩数計アプリを利用し、歩いた歩数等に応じて商工会の協賛店等からのプレゼントが当たる健康マイレージ事業を、令和元年度に引き続き実施し、令和2年度新規で事業に参加された方が460人でした。特に普段保健事業への参加が少ない40歳から59歳の参加が多く、全体の51%を占めました。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、既存の地域の集まりに出向く等の機会を持つことはできませんでしたが、広報紙やFMおとくに、市LINE等を利用して、コロナ禍でも日常生活の中で取り入れ実践しやすい運動や食事の工夫等について積極的に情報発信しました。 					健康マイレージ事業ちらし		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和2年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		健康寿命	健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。	196
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、市民に対面で健康情報の発信をする機会は減りましたが、母子保健事業やがん検診等で市民に対面する機会や、各種検診や予防接種、40・50歳代男性の風しん抗体検査の案内等の個別通知の機会を通じて、情報発信を行った結果、健康づくり啓発事業の参加者数は目標数を上回りました。 新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら、広報・ホームページ等で健康情報を配信した結果、配信回数も目標値を上回りました。 	
課題等	新型コロナウイルス感染症拡大の状況等を踏まえ、その時々状況に合わせて、効果的にあらゆる世代に届く、情報発信の方法を考えていく必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	健康無関心層へも届きやすい情報発信の媒体等を工夫し、窓口や事業で市民に対面する機会を通じて、健康情報の発信を行っていきます。

分野	21	保健・医療	通番 31
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	成老人健康診査・がん検診事業		会計	款	項	57,473,669	健康医療推進室
			一般	4	1		
事業の概要							
<p>健診・検診の受診勧奨やがん予防及び疾病予防の啓発を実施します。 国や京都府との連携や受診体制の更なる充実を図り、新たな健診・検診受診者の増加や定着を促進します。 また、歯科口腔を健康に保ち生活習慣病予防につなげるために、歯周疾患検診等の充実を図ります。</p>							

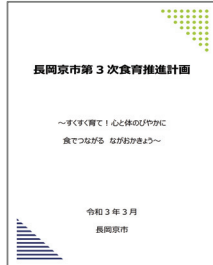
令和2年度の取組								
D (取組)	指標		大腸がん検診受診率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
		23.1(平成26年度)	目標	23.5	24.0	24.5	25.0	25.0
			実績	22.6	21.1	20.2	20.2	18.8
	指標		乳がん検診受診率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
		18.9(平成26年度)	目標	19.0	20.0	22.0	23.0	25.0
			実績	19.5	18.2	18.0	17.2	15.3
	<p>・国の「がん検診推進事業」において乳がん検診(40歳)、子宮頸がん検診(20歳)の対象者に検診無料クーポンを送付し、その未受診者に再勧奨を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全体の受診率は低下していますが、無料クーポン対象の年代に関しては、例年に比べ受診率が高い傾向にありました。 ・乳がん検診に関しては、上記の無料クーポン対象者の他に、41歳から45歳で受診歴があり、令和2年度に検診予約をしていない人へ個別で受診勧奨を行いました。 ・働き盛りの世代が、時間を気にせず検診の予約等ができるよう、スマートフォン等から市のがん検診の申し込みフォームへ簡単にアクセスし、予約ができることを広報しました。</p>							
								

施策の「5年後の目標」に対する評価			
令和2年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
		健康寿命	健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。
	達成度合い	C:目標の一部を達成できなかった	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療機関への受診控え等があったため、目標の80%以下の達成率となりましたが、申し込みの工夫や受診勧奨に努めました。
課題等	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける中においても、健康診査やがん検診は、自身の健康を守る上で「不要不急」ではないことを市民に周知し、受診機会を逃さないよう広報していくことが必要です。		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・市民が健康診査やがん検診を受ける機会を逃すことがないよう、市民が必要性を理解し、受診行動へつなげることができるよう啓発を行っていきます。

分野	21	保健・医療	通番 32
施策	211	健康づくりの促進	
5年後の目標		「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	食育推進事業		会計	款	項	-	健康医療推進室
			-	-	-		
事業の概要							
<p>家庭、保育所、学校、地域において様々な機会に、食生活と栄養についての知識の普及及び地産地消を推進し、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承に取り組み、第2次食育推進計画に従って事業を推進します。</p> <p>また、長岡京市食育推進委員会の構成団体を増やします。</p>							

令和2年度の取組							
D (取組)	指標	市内小学6年生の朝食欠食率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	2.8(平成26年度)	目標	2.1	1.6	1.1	0.5	0
		実績	2.7	4.1	3.0	3.5	-
<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、指標である「小学6年生の朝食欠食率」を調査している全国学力学習状況調査が実施されなかったため、令和2年度の実績値は不明です。</p> <p>・「長岡京市第3次食育推進計画」を策定しました。計画の策定にあたり、食育ワーキング会議（書面開催）及び食育推進委員会を開催し、計画内容について検討しました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催している「学べる食育ひろば」及び「体験できる食育ひろば」は開催せず、市政情報放映モニターや広報紙等で食育啓発を行いました。</p>					<p>長岡京市第3次食育推進計画(表紙)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和2年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		健康寿命			健康寿命(健康な状態で生存する期間)は伸びていますが、不健康な期間も延伸しています。	196
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<p><平成28年度からの5年間の達成状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市食育推進委員会の構成団体を増やし、幅広い部署と一緒に食育推進に取り組むことができました。 ・食育無関心層へも啓発できるよう、食育啓発イベント「食育ひろば」の開催方法を変更するとともに開催回数を増やし、参加者数は1.6倍となりました。 ・朝食欠食率0%は達成できませんでしたが、食育に関心を持っている市民の割合は77.6%から82.2%へと増加しました。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・食・生活習慣が多様化する中、朝食をとる割合や家族と一緒に食事をとる割合、地元産農林産物や行事食への関心をいかに高めるかが課題です。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、集客イベントの開催が難しい中、これまでとは異なる方法での効果的な食育啓発を行う必要があります。 					

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
2:進め方の改善の検討が必要	・オンライン講演会や食環境整備など、これまでとは異なる方法での啓発方法を検討します。